

脳卒中診療部

脳卒中診療部が対象とする領域は、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの急性期脳卒中をはじめとした脳血管障害です。脳卒中の治療分野では、機械的血栓回収療法やtPAを用いた血栓溶解療法などの脳梗塞治療、機械的血栓回収療法や脳動脈瘤コイル塞栓術などの脳血管内手術、内視鏡的・開頭血腫除去術や開頭クリッピング術などの直達手術、さらにはリハビリテーションまで多岐にわたり学ぶことができます。脳卒中は多くの医師が直面する疾患です。そこで、初期研修医が最新の治療体系を学び、適切な診療を行える実力を習得することを目指します。

1 年次の研修目標

脳卒中救急患者に対する初期対応・診断・治療のアルゴリズムを習得し、各種画像診断法・頸動脈コー・頸頭蓋ドップラーの手技を獲得する。

● 緊急患者の救急医療

A. 救急脳卒中患者を的確に診断し、所見を把握できる

1. バイタルサインの確認
2. 病歴聴取
3. 緊急処置の判断
4. 重症患者の対応

B. 適切に緊急検査を実施し、結果を正しく解釈できる

1. 一般検査
2. 心電図
3. X線写真撮影
4. 超音波検査
5. CT・MRI撮影
6. 脳血管造影

C. 適切な緊急処置を実施できる

1. 気道確保（気管挿管、気管切開）
2. 人工呼吸
3. 直流除細動
4. 腰椎穿刺
5. 動脈穿刺

● 病棟での診療

A. SCU、脳卒中病棟での正しい診断ができる

1. 臨床症状（診断基準、脳卒中スケール）

1. NIH脳卒中スケール
2. グラスゴー・コーマ・スケール
3. 日本脳卒中スケール

2. 画像診断

1. CT検査を行い、診断できる
2. MRI撮像法を理解し、結果を診断できる
3. 血管造影を行い、結果を読影できる
4. SPECT、負荷SPECTの結果を理解できる
5. PET検査の意義を理解できる
6. 超音波検査の意義を理解し、結果を判定できる

B. 各病態と診断に応じた治療法を選択できる

1. 薬物療法の有効性と副作用
2. 手術療法の理解
 - (1) 頸動脈内膜剥離術
 - (2) バイパス手術
 - (3) 開頭手術
 - (4) 血管内治療

■ 2年次の研修目標

脳卒中救急患者に対する初期対応・診断・治療の方針を決定できる技量と知識を習得する。特に重症脳卒中患者管理、脳卒中急性期から慢性期に向けての患者管理法を習熟する。

● 病棟での患者管理と手技

A. 診療の基本、問題点を理解し、病態に応じた治療選択と実施ができる

1. 呼吸・循環の管理と対応
 2. 術前・術後の管理、指導
 3. 薬物療法の理解と実施
 4. 栄養管理（中心静脈栄養、経管栄養）
 5. 全身合併症への対策と管理

B. 脳卒中診療に必要な技術を習得する

1. 意識障害、痴呆症の評価と管理
2. 頭蓋内圧の管理と亢進症状への対策
3. 脳卒中急性期の治療と管理
4. 頸動脈エコー法、頸頭蓋ドップラー法
5. 脳機能モニタリング法（SEP, ABR, EEG, TCD, ICPなど）
6. 神経障害や全身合併症を有する慢性期患者の管理
7. リハビリテーション、回復期リハビリテーション